

# フランス・バロック音楽の話

西洋音楽史のなかでも、とても特色ある一時代「フランス・バロック」の魅力あふれる世界を、  
スペシャリスト、関根敏子先生が楽しくお話しする連続講座が開講します！

月1回、初年度は代表的な作曲家を一人ずつご紹介します。同時代の音楽や社会にも触れて、年表を参照しながら、CD、DVD鑑賞を交えて生涯を説明していきます。扱う作曲家は、リュリ、M-A.シャルパンティエ、ドラランド、クーブラン、カンブラ、ラモーです。その後ブジニャック、ランベール、マラン・マレ、デュモン、デマレ、クレランポー、オトテール、フィリドール、ルクレール、コレット、ボワモルティエ、モンドンヴィル、モンテクレールなどマイナーな作曲家も取り上げます。今後、時代別、ジャンル別のお話も続いていく予定です。

毎回冒頭に古楽院院長花井哲郎による5分程度のクラヴサンの演奏があります。また、お茶とお菓子を頂きながらの歓談の一時もお楽しみ頂けます。ふるってご参加ください。



毎回土曜日 午後6時30分～9時

- 6月 26日 リュリ
- 7月 31日 ドラランド
- 9月 18日 M-A.シャルパンティエ
- 10月 23日 クーブラン
- 11月 20日 カンブラ
- 12月 4日 ラモー

講師：関根敏子(せきね としこ)

音楽学、音楽評論家桐朋学園大学音楽学部作曲理論学科(音楽学)卒業後、フランス政府給費留学生としてフランス国立パリ高等音楽院(パリ・コンセルヴァトワール)に学ぶ。またチェンバロをスコット・ロス、トン・コープマン他の各氏に師事。帰国後、桐朋学園大学・早稲田大学講師を経て、現在は昭和音楽大学・東洋大学・白梅学園大学各講師、音楽文献目録委員会事務局長。その他、新潟大学・京都市立芸術大学での集中講義、朝日カルチャーセンター新宿・横浜、さらに新聞や雑誌の評論など。4月よりNHK-FM番組「バロックの森」を担当。  
 主要な著訳書：『古楽演奏の現在』(監修)、『西洋の音楽と社会：後期バロック』(監訳、2巻)、『ドメニコ・スカルラッティ』[いずれも音楽之友社]、A.ヘリオット著『カストラートの世界』(国書刊行会、共訳)、ドメル・ディエニー著『演奏家のための和声分析と解釈：フォーレ』(シンフォニア、翻訳)、『音楽がわかる。』(共著、朝日新聞社)、『21世紀の音楽入門1～7』(共著、教育芸術社)、リスト著「ショパン」(訳)他、多数。

会場：フォンス・フローリス古楽院(東急東横線祐天寺駅より徒歩7分) 定員：18人 申込締切：6月19日(土)

受講料：全6回通し 15,000円

※本講座に入会金は不要です ※申込締切後に空きがある場合、1回ごとの受講(3,000円)もできます

【申込み・問合せ】フォンス・フローリス

(窪田) phone/fax: 04-7140-7225 e-mail: m-kubota@fonsfloris.com

※お申込み後に、受講料の支払い方法、古楽院地図をお知らせ致します